

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.217

2011年6月

濱口総長がサウジアラビア第2回国際高等教育フェア及び国際高等教育会議に出席

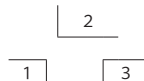


目次

●ニュース	
濱口総長がサウジアラビア第2回国際高等教育フェア及び国際高等教育会議に出席	3
名誉教授称号授与式・懇談会を開催	4
濱口総長がグローバル大学サミットに出席	5
平成23年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催	5
十六銀行と産学連携に関する協定を締結	6
●知の未来へ	
細胞が作り出す複雑な装置「分裂装置」の研究 五島 剛太（大学院理学研究科教授）	7
●知の先端	
植物とカビの相利的な共生関係を探る 竹本 大吾（大学院生命農学研究科准教授）	8
●地域にひらく	
大河講座「ひとの大学」講座を終えて 戸田山 和久（社会連携推進室・室員）	10
●キャンパスクローズアップ	
グリーンビークル材料研究施設	12
●部局ニュース	
第11回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナーを開催	14
第1回地球教室「ナゴヤで化石をさがそう！」を開催	14
ICCAE 第1回オープンセミナーを開催	15
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成23年4月16日～5月15日	16
●INFORMATION	
平成23年度名古屋大学公開講座	19
●イベントカレンダー	21
●ちょっと名大史	
第7代総長 <small>いしづかなおたか</small> 石塚直隆 ―名大をひきいた人びと⑫―	28

濱口総長がサウジアラビア第2回 国際高等教育フェア及び国際高等教育会議に出席





- 1 ブースで説明する総長
- 2 ブースの様子
- 3 アルアンカー大臣(左)と懇談する総長(右)

濱口総長が、4月19日(火)から22日(金)の間、サウジアラビア・リヤドを訪問し、第2回国際高等教育フェア及び国際高等教育会議に出席しました。

同フェアは、サウジアラビア高等教育省主催によるもので、約30カ国から日本の19大学等機関を含む400近くの大学、教育関係機関、企業等がブースを出展し、4日間にわたり、学生や大学関係者等多くの参加者に対し、情報提供や展示が行われました。本学のブースには、留学を希望する学生等が数多く訪れ、教育プログラムや日本での生活の様子、また日本文化等について熱心に質問し、メモを取る様子が見受けられました。総長が自らブースに立ち学生に説明をする場面もあり、貴重な機会に学生たちは目を輝かせていました。

また、ハーレド・アルアンカーサウジアラビア高等教育大臣も本学のブースを訪れ、本学のノーベル賞受賞者についての説明に熱心に耳を傾けていました。本学との交流を希望する大学等関係者も多く、これを機会に様々な分野での国際交流が促進されることが期待されます。

20日(水)には、総長とアルアンカー大臣との会談が行われました。会談で

は、アルアンカー大臣から国際高等教育フェア及び国際高等教育会議への出席に対する謝意とともに、同フェアを機会にサウジアラビア人学生の海外留学が促進されることへの期待が述べられました。総長からは、本学の概要や文部科学省国際化拠点整備事業(グローバル30)を紹介し、サウジアラビアの留学生を受け入れる体制について示しました。

その後、総長は、同時開催された国際高等教育会議に出席しました。この会議は、高等教育における国際的諸問題に対してサウジアラビアが有している関心や問題意識を知る良い機会となりました。

21日(木)には、国際諮問委員を務めるサウジアラビアのキング・アブドゥルアズィーズ大学と、キング・ファイサル大学の関係者と懇談し、両大学との今後の協力関係構築について、前向きな意見交換を行いました。

22日(金)には、リヤドで開催されていたジャナドリヤ祭の視察を行いました。同祭典はサウジアラビアの伝統・文化の伝達を目的とした王室衛士府主催の国民的文化祭典で、毎年湾岸諸国以外の国がゲスト国として選ばれます。今年は日本がゲスト国となっていることから、総長は日本のパビリオン等を見学しました。



名誉教授称号授与式・懇談会を開催

名誉教授称号授与式が、5月10日(火)、豊田講堂第1会議室において挙行されました。

名誉教授の称号は、本学教授として7年以上勤務し、教育上又は学術上特に功績のあった方等に授与するもので、今回新たに8名(新制計1,061名)の先生方に授与されました。

授与式では、開催に先立ち、東日本大震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りし黙祷しました。授与式には新名誉教授のうち5名が出席し、濱口総長から各名誉教授に辞令書が授与され、永年にわたり本学の教育・研究の発展に多大なる貢献をされたことへのお礼と、お祝いのことばが述べられました。その後、新名誉教授を代表して中村研三先生からあいさつがありました。

引き続き、シンポジオンホールにおいて、名誉教授懇談会が約90名の参加を得て開催されました。懇談会は、新名誉教授の紹介で始まり、昨年秋の叙勲等受章者、役員・部局長の紹介に続いて、総長からあいさつとこの1年の本学の動き等について報告がありました。その後、現名誉教授



記念撮影

を代表して永津俊治先生から近況報告があり、山下廣順元理事の発声で乾杯が行われ、参加者は、終始和やかな雰囲気の中で懇談しました。

今回、新たに名誉教授の称号が授与されたのは、次の方々です。

医学系研究科	中尾昭公
医学部附属病院	高松純樹
工学研究科	松井恒雄
工学研究科	大熊繁
工学研究科	高井吉明
生命農学研究科	中村研三
環境学研究科	廣瀬幸雄
環境医学研究所	水村和枝

(授与番号順、敬称略)



授与式の様子

濱口総長がグローバル大学サミットに出席

濱口総長が、5月5日(木)から7日(土)の間、フランス・パリにおいて、グローバル大学サミットに出席しました。

同会議は、2008年の北海道洞爺湖サミットでG8大学長会議が開催されて以降、G8の開催国において開催されているもので、今年はG8国だけでなくG20の国々にも範囲を広げてグローバル大学サミットとして行われました。



会場の様子

今回は、フランス大学協会及びブルゴーニュ大学の主催で、「持続可能な発展及び知識社会」をメインテーマに開催され、日本から参加した本学、東京大学及び慶応義塾大学を含む、38カ国から約80の高等教育機関等の代表が出席しました。

冒頭、ヴァレリー・ペレス フランス高等教育・研究大臣からあいさつがあり、続いて、ソフィー・ベジャン ブルゴーニュ大学長、ルイ・ヴォゲル フランス大学協会会長、ステファン・トゥーブ プリティッシュ・コロンビア大学長、また、濱田東京大学総長から、それぞれあいさつが行われました。その後、ジョージ・ハダッド ユネスコ教育局高等教育部長による基調講演が行われた後、サブテーマである「地理的及び社会経済的観点から見た大学」、「学生、教員・研究者の国際的流動性」、「e-大学、ネットワーク、e-ラーニング、e-サーチング、e-ワーキング」及び「新たな技術・新たなユーザー」という各ワークショップに分かれて、事例発表及び議論が行われました。また、学長会議に先立って行われた、学生サミットの議論結果報告も行われました。

会議は、最後にパリ & デイジョン宣言が採択されて終了しました。

平成23年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催

平成23年度春季新入留学生歓迎懇談会が、5月17日(火)、南部食堂において開催されました。同懇談会は、今後の留学生活を実りのあるものになるよう激励し、留学生と留学生関係教職員との懇談を通して一層の相互理解・交流を深めることを目的としており、当日は、新入留学生、教職員など約300名の参加がありました。



あいさつする総長

最初に濱口総長から歓迎、激励のあいさつがあり、これを受け、新入留学生を代表して、大学院情報科学研究科の陸 西(中国)さんと、法学部の田 甲一(中国)さんが、それぞれ日本での留学についての抱負等を述べました。

続いて、名古屋大学留学生会(NUFSA)から本学における留生活動などが紹介されました。

その後、宮田理事の発声により乾杯し、懇談にうつり、新入留学生が総長や教職員を囲んで、にこやかに歓談したり、記念撮影したりする姿が会場のあちらこちらで見られました。

懇談会は、町田留学生センター長の閉会のあいさつの後、大盛況のうちに終了となりました。

十六銀行と産学連携に関する協定を締結

株式会社十六銀行との産学連携に関する協定締結式が、4月27日(水)、本部1号館第2会議室において、挙行されました。締結式では、宮田理事及び坂井達英十六銀行法人営業部長があいさつを行い、連携への期待を確認しあった後、協定書を取り交わしました。

同行は、岐阜県に本店を構える地方銀行ですが、すでに

愛知県の大学と同種の協定を締結しており、本学は5校目となります。経済情勢が依然として厳しい状況にある中、中部地域の基幹的総合大学である本学との協定締結に期待するところは大きく、アジアへの海外展開を視野に入れていることから、本学に留学経験のある卒業生等の人的ネットワークの活用に対して期待を寄せています。

本学としても、特に次世代自動車、環境、医療などの新産業分野に対する産学官連携を推進している中、地元中堅・中小企業との関係を多く持つ有力地銀との協定締結は、大学側が目指す中部地域の産学官連携プロジェクト実現の意向とも合致しており、大学シーズを広く社会へ発信していきたいと考えています。



協定書を取り交わした宮田理事(左)と坂井営業部長(右)

細胞が作り出す複雑な装置「分裂装置」の研究

大学院理学研究科教授
五島 剛太

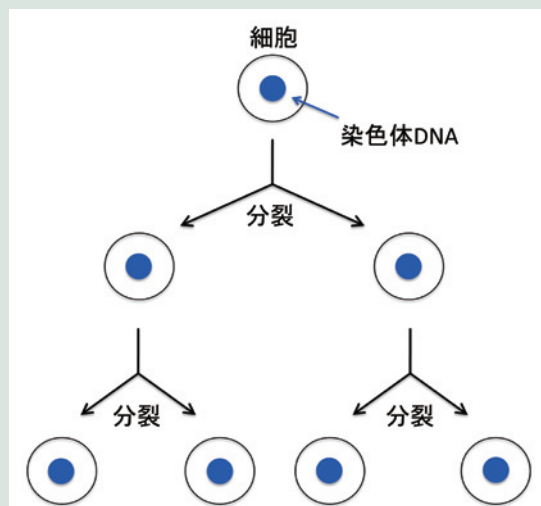


図1 細胞は分裂する際に染色体 DNA を2つの娘細胞へ均等に分配する

と明らかにしてきました。その結果、細胞内に存在する他の多くの装置と同じく、分裂装置も複数のタンパク質の集合でできていることがわかりました。たとえば、装置の端に位置する「中心体」と呼ばれる部分では、少なくとも5つのタンパク質が中核となる部分を構成し、その周辺に数十もの別のタンパク質が集積して、そこから「微小管」という繊維状のタンパク質重合体が出現します。ここ数年の部品タンパク質探しの研究の進展はめざましく、おそらく、装置を作るために必要な部品の全貌はほぼ明らかになったと思われます。

では、細胞がどうやって分裂装置を作っているのかを、私たちは理解できたと言えるのでしょうか？ 残念ながら答えは否です。各部品がどのような相互作用をして、どういう化学反応を起こすのかが、まだほとんどわからないからです。私たちの研究室では、分裂装置の中で起こる複数のタンパク質による化学反応の理解を目指しています。これが明らかになれば、細胞の力を借りずに私たちが用意した部品で分裂装置を組み立てる、ということも実現できるかもしれません。

人間はさまざまな装置を作って暮らしに役立っています。工場で機械装置を作るときには、部品を調達してから組み立てるという流れでしょうか。私たちの体を構成する細胞も、内部では化学反応によってさまざまな装置を作り出しています。その中でも細胞にとってとりわけ重要で複雑な装置が「分裂装置」と呼ばれるものです。

私たちの体は60兆個もの細胞からできています。細胞が分裂して増えることは、たった1個の受精卵から私たちの体が出来上がるために必要不可欠なプロセスです(図1)。細胞が分裂するときには、細胞を2つに分けるだけでなく、染色体DNA(遺伝情報が書き込まれています)を2つの細胞へと均等に分配するという重要な仕事があります。このとき必要となるのが分裂装置という双極性の構造体です(図2)。細胞がこの装置をどうやって作っているのかという問いは、装置の発見以来100年以上にわたって、多くの研究者を引きつけてきました。私もそのひとりです。

これまで研究者は、さまざまな手法を駆使して、分裂装置を作るための部品(構成因子)を次々

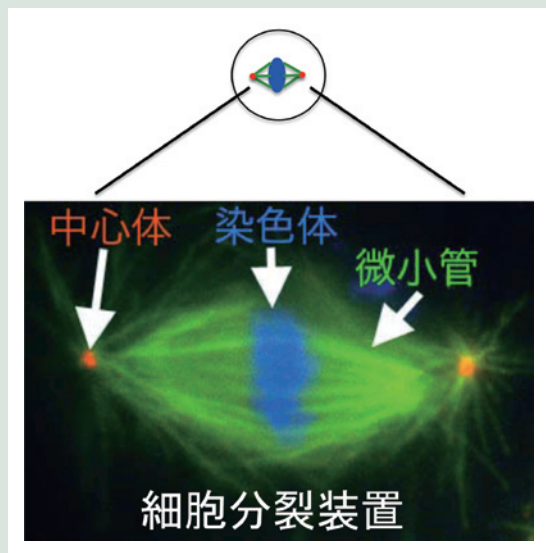


図2 細胞は分裂時に長さ約10 μ mの「分裂装置」を作る

植物とカビの相利的な共生関係を探る

竹本 大吾 大学院生命農学研究科准教授

地球上には、見つかっているだけでも約200万種以上の生物が暮らしており、その殆ど全てが他の生物と何らかの関わりを持っています。人が特定の生き物を駆逐したり、あるいは本来はその地域にいない外来種を導入したために、生態系のバランスが崩れてある種が絶滅してしまったという話を良く耳にするかと思います。この例の様に、他の種との関係にうまく対処することは種の存続にとって死活問題です。気温、湿度、光などといった環境要因と比較して、生物間の相互関係は変化が早くまた複雑であり、生物種の進化と淘汰の歴史を彩ってきた一つの大きな要素であると言えます。私たちが研究対象としているカビの仲間である

*Epichloë*属エンドファイトも多くの生物と関係を持っています(図1)。エンドファイトとは植物の内部に生息する微生物を意味する言葉で、ギリシャ語の「endo (内部の)」と「phyte (植物)」との合成語です。エンドファイトは、牧草、芝草などの細胞と細胞の間隙で生育しており、植物から栄養を得て伸長し、植物の種に入って行き、種から育った次世代の植物にも感染します。一方、昆虫に摂食障害をもたらす物質や、動物の神経毒となる物質を合成することでエンドファイトは植物を守っています。またメカニズムは明らかにされていませんが、エンドファイトが感染した植物は微生物によって引き起こされる病気に強くなる

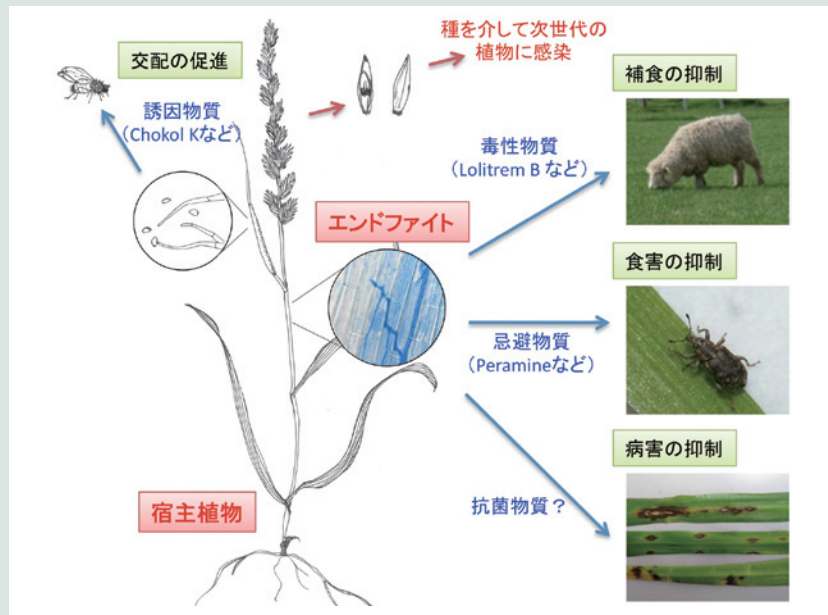


図1 *Epichloë*属エンドファイトと宿主植物ペレニアルライグラスの共生関係
中央円の青く染色されているのが、植物に感染しているエンドファイトの菌糸。エンドファイトは植物中で様々な生理活性物質を生産し、外界生物との関係をコントロールしている。

ことが知られています。このようにエンドファイトと植物は、共に利益を与えあう相利共生の関係にあります（図1）。

またエンドファイトはある種の手も相利関係にあります。エンドファイトは有性生殖する際に、植物表面に胞子形成のための器官を作りますが、この器官でつくられる物質で手を誘引し、手の体についた胞子が他の植物に感染しているエンドファイトの生殖器官に運ばれます（図1）。一方、この手の幼虫は胞子形成器官をエサとして成虫に成長することが知られています。

様々な生物と直接、間接的に相互作用しているエンドファイトですが、私たちはその中でも、植物の中で生活できるというエンドファイトの特性に注目しています。通常、植物の中に微生物が入ろうとすると、植物は抗菌物質を生産するなど微生物を排除する反応を誘導します。一方、植物とエンドファイトの関係では、植物は目立った反応を示さず、“静かな共存関係”が保たれています。そこで私たちは、植物とうまく共生できない変異株を単離し、共生確立のメカニズム解明を目指しました。単離したエンドファイト変異株は、植物内で過剰に生育し、まるで病原菌のように植物を矮化・枯死させてしまいました。この“病原菌化”してしまう変異株の解析から、エンドファイトが活性酸素を利用して植物中で菌糸の枝分かれをコントロールしていることが分かってきました（図2、Plant Cell 2006）。最近ではエンドファイト

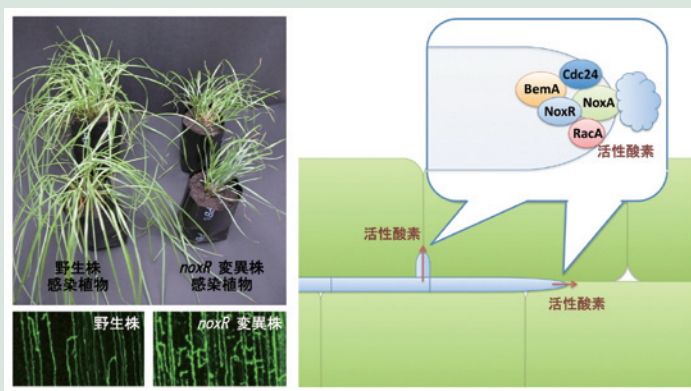


図2 共生能を失ったエンドファイト *noxR* 変異株
 (左上) 活性酸素生成酵素の活性化因子である NoxR を欠損したエンドファイト菌株に感染した植物は矮化する。(左下) *noxR* 変異株の植物内での生育。野生株と比較して菌糸の分岐が著しく増加している。エンドファイト菌糸は GFP を導入して可視化。(右) エンドファイトの活性酸素生成に関わる因子。NoxA が、2つの因子 NoxR および RacA によって活性化され、菌糸先端で活性酸素を生成する。BemA と Cdc24 は NoxR を菌糸先端に局在化させる役割を担っている。

細胞が活性酸素を生成する部位を制御する因子を単離しました（図2、Proc Natl Acad Sci USA 2011）。一連の研究で、エンドファイトが自らの生育を適度に抑制することで“共生相手をいたわる”機構をもつことが明らかとなりました。

エンドファイトは、植物との共存共栄を目指す進化の過程で植物を守る様々な特性を獲得しており、この特性は農業にも利用されています。例えば、耐虫性物質を生産するエンドファイト菌株が、現在のニュージーランドの牧草用ライグラスの70-80%に導入されています。私たちは、共生確立のメカニズムと並んで、まだ殆ど解明されていない植物を病気から守る特性についての研究にも取り組んでおり、研究の成果をエンドファイトの有効利用に繋げたいと考えています。

2000年名古屋大学大学院生命農学研究科生物機構・機能科学専攻博士課程後期課程修了、2000年日本学術振興会特別研究員、2001年オーストラリア国立大学博士研究員、2005年マゼイ大学（ニュージーランド）博士研究員、2007年名古屋大学大学院生命農学研究科助教を経て、2011年より大学院生命農学研究科准教授。植物と微生物の共生的あるいは敵対的な相互作用について、分子生物学的手法とイメージングを組み合わせて研究している。趣味（関心ごと）：子育て

たけもと だいご



大河講座「ひとの大学」講座を終えて

戸田山 和久 社会連携推進室・室員



平成23年3月23日に、「ひとの大学」の最終回を行いました。「ひとの大学」は、本学とNHK文化センターとが提携し、平成20年度から3年間、60回にわたって実施してきた「大河講座」です。3年間で、学生・教職員49名を含む、延べ342名の方々が受講してくださいました。

そもそも、当時の文化センター支社長から、細分化した学問を総合して人間の来し方行く末を展望する、受講者にもそれなりの覚悟を要求するような講座をやってみたい、というご提案を受けたことから始まりました。この提案を意気を感じた数名の教員が、知の担い手としての大学の底力を社会に訴えようじゃないか、とさっそく実現に向けて動き出した、という次第です。折しも、名古屋でゴーギャン展が予定されていたこともあり、講座をつらぬくメインテーマを、ゴーギャンの大作のタイトル「われわれはどこから来たのか、われわれとは何ものか、われわれはどこへ行くの

か」から拝借しました。こうして、宇宙の始まりから説きおこし、3年かけて宇宙の全歴史の中に人間存在を置いてその存在の意味を問いすめ、最後は宇宙の終わりについての展望まで論じるという、いささか誇大妄想的な講座がスタートしたのです。

初年度「天の巻」は「われわれはどこから来たのか」をテーマに、古代ギリシアの宇宙創生神話から、ビッグバン宇宙論、全地球史解説プロジェクト、生命の起源、生物とヒトの進化、そして文明の発生までを辿り、われわれの来し方に思いをはせました。次年度「地の巻」は「われわれは何者か」と題して、homo sapiens、homo loquens、homo librarius（ふみ読むもの）、homo economicus、homo faber、homo religiosus、homo aestheticus等々の「ひと」とは何かを定義するさまざまな試みに、科学と学問の光を当てることを試みました。そして、最終年度「人の巻」は、



いよいよ「われわれはどこへ向かうのか」でした。これは、死と滅びがテーマです。まずは、細胞死から始め、死の哲学、老化の科学と医療、自殺の問題、輪廻思想、世代間倫理、千年持続学、美術における死のイメージ、ミーム論、などが続き、生物大量絶滅、地球の最期、宇宙の最期に至るというストーリーです。死も滅びも辛気くさいテーマと考えられているのでしょうか、あまり大学の公開講座等では表だって論じられることが少ないかと思います。しかし、人間は、死を思うことではじめて人間らしくあるという考えのもと、あえて死をテーマに据えてみました。

また、各年度の最終回はそれぞれディスカッションとし、その年度に登壇いただいた先生方にお集まりいただき受講者を交えた議論を行いました。白熱した議論はそのまま、続けて開催した懇親会に引き継がれ、議論の輪があちこちにできていました。

3年間を通じての最終回にあたる平成23年3月23日には、3年間無欠席、ないし95%以上の出席率で参加いただいた受講者4名に、濱口総長から表彰状を授与していただきました。その後、濱口総長の記念講演と自由討論「ひとの大学の問題提起について」を行いました。東日本大震災の直後だったこともあり、震災後われわれはいかに生きるべきか、そのために学問が果たしうることは何か、といったことがらが話題の中心になり、教員と受講者が、同じ市民という立場から真剣に討議することができたと思います。

最初は数名の妄想と思いつきから始まった「ひとの大学」ですが、3年間にわたってこれをしっかり運営して下さったのは、NHK文化センターのみなさんでした。文化センターのスタッフ方々の理解と協力、そして受講者の皆さんの積極的な参加なしには、妄想は妄想に終わったことでしょう。心より感謝申し上げます。

36. グリーンビークル材料研究施設



今回は新しい自動車の研究・開発を目的として、経済産業省からの補助金を得て今年3月に完成したグリーンビークル材料研究施設を紹介します。

既に自動車メーカー各社が、自社製品をグリーンビークル（未来自動車）と謳っていますが、ここで言うグリーンビークルは、世界に類のない究極的な低エネルギー損失、低炭素化、安全性の徹底追求などの技術を搭載した、人にも優しく、環境にも優しい「次世代コンセプトで創られる未来自動車」のことであり、未来の社会で使用される自動車を示しています。この「次世代コンセプトで創られる未来自動車」の技術研究・開発を通じて自動車産業・自動車周辺産業のコンソーシアム



形成、技術開発支援・技術指導などによる地域技術力の底上げを目指し、産業界の他、地方自治体、大学研究者などが連携する場となることを目





的にグリーンビークル材料研究施設が整備されました。

建物は東山キャンパスの東端、共同教育研究施設の建物群の中に建設され、地上4階地下1階となっています。外観はベージュ系タイルを基調とし、東面では空調屋外機メンテナンスデッキを穴あき加工銅板で覆い民地へデザイン的に配慮し、キャンパス内の整備済み建物とも統一感を図ったものとしています。

内部は、地階に分析室を、1階には産学連携研究スペースを用意し、2階から4階はすべてを拠点プロジェクト研究実験室として整備しています。すべての研究実験スペースは、出来る限り多くのプロジェクト研究に対応できるようにしています。また、プロジェクト研究の変更・更新等、使用形態の変更を想定し、特に間仕切壁や配管・配線レイアウト変更が柔軟に対応可能となるよう全面二重床、乾式間仕切壁を採用しています。変更・更新の自由度を高めたことで建築物の寿命を伸ばすことにもつながります。

その他、自動車のグリーンイノベーションを目

指すグリーンビークル研究・開発が目的の研究施設にふさわしく、

- ・全館にLEDの照明
- ・CO₂排出削減を目的とした高効率空調機
- ・配電ロス削減する高効率変圧器
- ・熱の通り道である窓に複層ガラス
- ・輻射熱を減少させる遮熱シート防水
- ・不在点灯を防止する昼光・人感センサー付き廊下照明
- ・省エネを目的とする各種センサーを搭載したドラフトチャンバー

を採用することにより、省エネルギー、省資源、CO₂の排出抑制を進めて環境に配慮したものとしています。

今回の建物は、世界でも有数の自動車・輸送機械産業の集積地である中部地区の特色を強く打ち出した産学官・社会連携拠点となるものです。濱口プランで示されている産学官・社会連携に貢献できるよう、引き続き、地域、大学の特色を生かした産学連携拠点の整備に努力していきます。

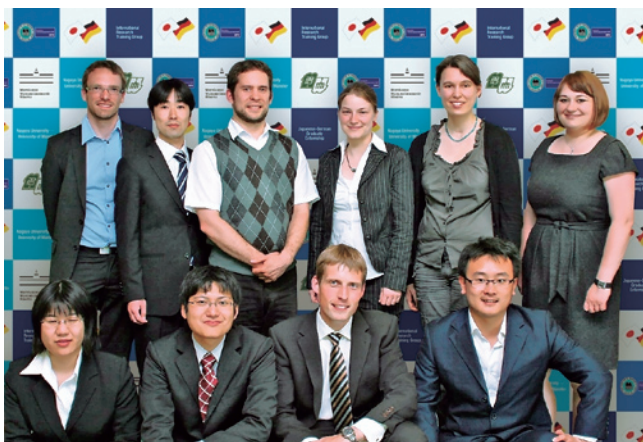
(施設管理部)



第11回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナーを開催

●大学院理学研究科、物質科学国際研究センター

大学院理学研究科及び物質科学国際研究センターは、5月9日(月)、10日(火)の2日間、ドイツ・ミュンスター大学において、第11回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナーを開催しました。同セミナーでは、本学から教員6名、学生5名、ドイツ側から教員3名と学生5名の発表があり、16件のポスター発表も行われました。



集合写真

ドイツでの開催が6回目となる今回は、すでに日本での研究滞を終えてドイツに戻り、博士号取得に向けて最後の論文作成に励む学生達が、日本で担当だった教員を囲んでディスカッションを行う等、活発な意見交換が行われました。すでに教員となった者や、企業の研究員としてミュンスター大学を卒業していった学生等も多くいますが、日本側教員のミュンスター訪問に合わせ、新たな論文発表の打合せやその後の状況を連絡するために、わざわざ訪れた元学生の姿も見られました。

セミナー開催中には、日本側コーディネータの巽 和行物質科学国際研究センター長へのミュンスター大学名誉博士号授与式も行われました。参加した教員と学生は、通常の共同セミナーに加えて、ミュンスター大学により執り行われたセレモニーにも出席しました。セレモニーでは、同プログラムに参加するドイツ人学生により、同プログラムの紹介が日本語と英語の両方で行われました。

第1回地球教室「ナゴヤで化石をさがそう！」を開催

●博物館

博物館は、5月7日(土)、8日(日)の2日間、第1回地球教室「ナゴヤで化石をさがそう！」を開催しました。

今回は、事前応募者から抽選で選ばれた小・中学生とその保護者を含む約30名が参加し、名古屋市内において、化石を見つけながら自然に触れる喜びを体感しました。

1日目は、町で化石を発見するための基本知識とコツを



化石を観察する参加者

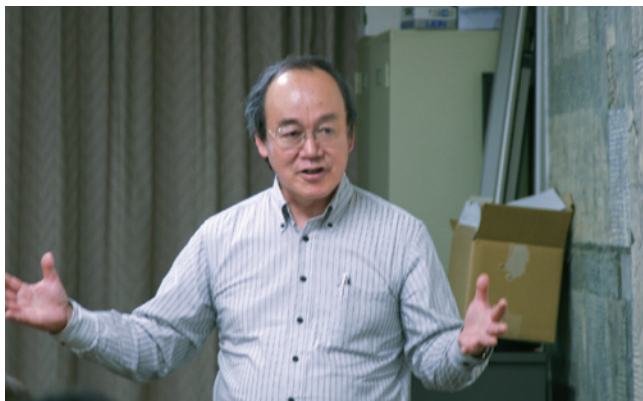
事前学習するために、博物館において岩石や化石に関する講義を受講するとともに、貝殻を切断して断面の見え方を学ぶ体験やクイズをしました。また、現在開催中の特別展「深海の生物と古生物」のギャラリートークに参加しました。

2日目は、名古屋駅と栄周辺でオリエンテーリングをしながら、参加者が主体となって化石探しを行いました。慣れ親しんだ場所にもかかわらず、前日に養った観察眼をもって臨むと、これまで知らなかった化石が目飛び込んでくることに参加者は驚いていました。

化石の案内と解説には、愛知大学名古屋一般教育研究室のスタッフの補助を得ました。

ICCAE 第1回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター



講演する伊藤氏

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、5月9日（月）、農学部大会議室において、2011年度第1回オープンセミナーを開催しました。

今回は、元国際農林水産業研究センターの伊藤 治氏が「天水農業を対象とした作物・資源管理研究」と題し、途上国の現場で農民とともに農業生産向上のための技術開発に長年携わってきた経験を踏まえ、科学のための研究と現場でインパクトを与える研究の両方が重要であるが、両立は難しいことについて説明しました。また、伊藤氏は、住民とともに問題を考え、捉え、解決することがインパクトを与える研究につながり、それができるようになったのは、途上国の現場を自分の目で見たことが契機となったと話し、研究者が農業の現場、現実を目のあたりにして考えることの重要性を強調しました。

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
1 朝日カルチャーセンター新講座:「文学に残る名僧～史実とフィクションの狭間にある真実」阿部泰郎文学研究科教授	4.16 (土)	朝日 (朝刊)
2 野依良治本学特別教授は大震災後の科学の取り組みについて語る	4.17 (日)	日経 (朝刊)
3 古川路明本学名誉教授は原子力発電所の水素爆発を考慮していなかった東京電力株式会社について「甘かった」と話す	4.17 (日)	中日 (朝刊)
4 飯田喜四郎本学名誉教授が委員長を務める名古屋城跡全体整備検討委員会は名古屋城西南隅櫓の倒壊時期が30年違っていたという名古屋市教育委員会文化財保護室の調査結果を受け了承する	4.17 (日)	読売
5 並河鷹夫本学名誉教授が第48回読売農学賞を受賞する	4.17 (日)	読売
6 佐々井崇博環境学研究科助教らの研究グループ 日本域の自然生態系における炭素収量を1キロメートル解像度で解析	4.17 (日) 4.19 (火)	朝日 (朝刊) 日刊工業
7 現代日本誤百科 (418):「態勢をひく」町田 健文学研究科教授	4.18 (月)	中日 (朝刊)
8 本学などと東日本大震災で被災した東京大学など4大学がスーパーコンピューターの共同利用で話し合いを始める	4.18 (月)	日経 (朝刊)
9 古川路明本学名誉教授は福島第一原子力発電所の事故について「予想外の事態が起きる可能性は十分ある」と話す	4.18 (月)	中日 (朝刊)
10 キラリ☆研究開発:草野完也太陽地球環境研究所教授から紹介を受けた東京大学教授 深尾良夫氏が地震研究について語る	4.18 (月)	日刊工業
11 毛利佳年雄本学名誉教授、内山 剛工学研究科准教授らは高齢者の居眠り運転防止につながる技術を開発する	4.18 (月)	日刊工業
12 東海大学サッカーリーグ:本学は2-1で常葉学園大学に勝利する	4.18 (月)	中日 (朝刊)
13 東海地区大学準硬式野球 春季リーグ3部:本学医学部チームは11-1で愛知県立大学に勝利する	4.18 (月)	中日 (朝刊)
14 福和伸夫環境学研究科教授は「高校生は震災から学んで欲しい」と話す	4.18 (月)	中日 (朝刊)
15 本学が環境総合館4階に設置した「大震災情報集約拠点」が紹介される	4.18 (月)	中日 (朝刊)
16 「がんを生き抜く」連続講座開催:5月29日、7月17日、10月23日、2012年3月4日	4.18 (月)	中日 (夕刊)
17 乳がん相談会開催:角田伸行医学部附属病院講師が講演	4.18 (月)	中日 (夕刊)
18 野依良治本学特別教授が委員長を務める世界化学年日本委員会の取組みが紹介される	4.19 (火)	日刊工業
19 現代日本誤百科 (419):「社会貢献につながる商品」町田 健文学研究科教授	4.19 (火)	中日 (朝刊)
20 訃報:仲井猛敏本学名誉教授	4.19 (火)	読売 他2社
21 高岸芳子環境医学研究所助教らの研究グループ 細胞分子モーターの働きが脳の神経伝達や学習に関わる機構を解明	4.20 (水)	中日 (朝刊) 日刊工業
22 第15回名古屋大学博物館特別展「深海の生物と古生物-知多の化石から生きているウミユリまで」開催:26日～8月31日	4.20 (水)	中日 (朝刊)
23 現代日本誤百科 (420):「苦言を言う」町田 健文学研究科教授	4.20 (水)	中日 (朝刊)
24 中日文化センター新講座:「地球環境の変化と保全」西村浩一環境学研究科教授ほか	4.20 (水)	中日 (夕刊)
25 第1回地球教室「ナゴヤで化石をさがそう!!」開催:5月7、8日	4.20 (水)	中日 (夕刊)
26 博物館野外観察園セミナーハウス2F「三矢保永写真展-空 雲 光-」開催:18日～5月27日	4.20 (水) 4.29 (金)	中日 (夕刊) 読売
27 現代日本誤百科 (421):「キャラがかぶる」町田 健文学研究科教授	4.21 (木)	中日 (朝刊)
28 鷲谷 威環境学研究科教授、山岡耕春同教授は東日本大震災後の余震や誘発地震の見通しについて語る	4.21 (木)	朝日 (朝刊)
29 日本塑性加工学会創立50周年記念シンポジウム開催:5月26日 戸澤康壽本学名誉教授が講演	4.21 (木)	日刊工業
30 佐藤友利亜さん本学学生が代表を務める学生グループ「TJG311」が行っている東日本大震災被災者を支援する募金活動が紹介される	4.21 (木)	読売
31 名古屋大学・京都教育大学マンドリンジョイントコンサート開催:5月4日	4.21 (木)	中日 (朝刊)
32 名古屋大学交響楽団定期演奏会開催:5月5日	4.21 (木) 4.22 (金)	朝日 (夕刊) 中日 (朝刊)
33 山本 尚本学名誉教授が米国芸術科学アカデミーの正会員に選出される	4.22 (金)	中日 (朝刊)
34 本学が設置した「グリーンモビリティ連携研究センター」が先端分野の研究強化の一例として紹介される	4.22 (金)	日刊工業 中部特集
35 伊藤秀章本学名誉教授がレアメタルのリサイクルシステムの確立を目指す産学による研究会の会長として紹介される	4.22 (金)	日刊工業 中部特集
36 古川路明本学名誉教授は福島第一原子力発電所の事故について「今後は放射線量が下がりにくい」と話す	4.22 (金)	中日 (朝刊)
37 第68回防災アカデミー「揺れをはかる-安全・安心な都市空間を見守る振動モニタリング技術-」開催:27日 飛田 潤災害対策室教授が講演	4.22 (金)	毎日 (朝刊)
38 日本数学コンクールフォローアップセミナー「数理ウェブ」開催:23日 大沢健夫多元数理科学研究科教授、足立真訓さん本学大学院生が話す	4.22 (金)	毎日 (朝刊)
39 紙つぶて:笑いのつば 森 郁恵理学研究科教授	4.22 (金)	中日 (夕刊)
40 堤 柊羽さん教育学部附属中学校生は中日新聞「ハローお仕事」で中学生記者を務める	4.22 (金)	中日 (夕刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
41 ノーベル賞受賞者と小中学生の交流会「HOPE ミーティング Jr」開催：3月6日 小林 誠本学特別教授、益川敏英同特別教授が出席	4.24 (日)	読売
42 本学が受け入れる予定だった留学生の半数が東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故の影響で「辞退・延期」を申し出る	4.24 (日)	読売
43 田所敬一環境学研究科准教授は東日本以外で起きた東日本大震災に誘発された地震について「中部までの地殻にかかる力が大きく変わったからだ」と話す	4.24 (日)	日経 (朝刊)
44 24日に開催された「チェルノブイリ事故25周年講演会」に参加した本学学生は「NPO や市民自らが活動する姿勢が大切だと感じた」と話す	4.25 (月)	中日 (朝刊)
45 野依良治本学特別教授、小林 誠同特別教授、益川敏英同特別教授が出席したノーベル賞受賞者と学生の交流会「HOPE ミーティング」の様子が紹介される	4.26 (火)	読売
46 Viva 地球：益川敏英本学特別教授は東日本大震災について「時代の変節点に地震が起こったことで変化が加速されるということだ」と語る	4.26 (火)	中日 (朝刊)
47 医人伝：古森公浩医学系研究科教授の血管外科の仕事が紹介される	4.26 (火)	中日 (朝刊)
48 本学と名古屋工業大学、愛知県立大学の3研究室と共同でNTT ドコモ東海支社が「ネクスト・コミュニケーション・フォーラム」を設立する	4.26 (火)	朝日 (朝刊)
49 福和伸夫環境学研究科教授は愛知県知事を来訪する	4.26 (火)	中日 (朝刊)
50 東海大学サッカーリーグ：本学は岐阜大学に9-1で勝利する	4.26 (火)	中日 (朝刊)
51 アーチェリー東海学生連盟王座出場校決定戦 女子：本学は南山大学に157-152で勝利する	4.26 (火)	中日 (朝刊)
52 パーキンソン病医療講演会開催：30日 梶田泰一医学系研究科准教授が講演	4.26 (火)	中日 (朝刊)
53 鈴木孝幸理学研究科助教 烏骨鶏が5本指である謎を解明	4.26 (火)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
54 現代日本誤百科 (422)：「おしゃれリッチ」町田 健文学研究科教授	5. 1 (日)	日経 (朝刊)
55 山岡耕春環境学研究科教授は地震予知連絡会で国土地理院や防災科学技術研究所などの観測結果をまとめて報告する	5. 5 (木)	日刊工業
56 朝日新聞×大学ランキングタイアップ企画：名古屋大学の宣言	4.27 (水)	中日 (朝刊)
57 現代日本誤百科 (423)：案内を「メール連絡する」町田 健文学研究科教授	4.27 (水)	朝日 (朝刊)
58 川崎浩司工学研究科准教授は浜岡原子力発電所の津波想定について「これまでの想定で十分と言えるわけではない」と話す	4.28 (木)	中日 (朝刊)
59 東海北陸医師薬系大学ラグビー：本学医学部チームは21-22で金沢大学医学部チームに敗れる	4.28 (木)	中日 (朝刊)
60 本学と十六銀行が産学官連携協定を締結	4.28 (木)	日刊工業 日経 (朝刊)
61 太陽地球環境研究所は被災した東北大学の地球物理学専攻の学生9人を受け入れる	5. 2 (月)	中日 (朝刊)
62 岡田 俊医学部附属病院講師はチックの症状について解説する	4.28 (木)	朝日 (夕刊)
63 福和伸夫環境学研究科教授は東海地震の被害想定を見直すよう提言する	4.29 (金)	中日 (朝刊)
64 さかえサイエンストーク「鉄道に思いを寄せて」開催：29、30日 サイエンス・コミュニケーション推進室主催	4.30 (土)	日経 (朝刊)
65 バスケット東海学生大会 男子2回戦：本学は112-54で名古屋外語大学に勝利する	4.30 (土)	中日 (朝刊)
66 「名大さくら酵母をテイティングして、『お酒の語り手』になろう！」開催：4月25日 サイエンス・コミュニケーション推進室主催	4.30 (土)	朝日 (朝刊)
67 現代日本誤百科 (424)：「千個が完売」する 町田 健文学研究科教授	5. 2 (月)	中日 (朝刊)
68 本学などはメダカの利用促進の研究会「医学・創薬に向けた小型魚類モデル利用促進ネットワーク」を6月に設立する	5. 2 (月)	中日 (朝刊)
69 弓道高校男子団体：教育学部附属高等学校は3位となる	5. 2 (月)	日刊工業
70 東海大学サッカーリーグ：本学は3-2で名古屋学院大学に勝利する	5. 2 (月)	中日 (朝刊)
71 春名幹男国際言語文化研究科特任教授はビンラディン容疑者が死亡したニュースについて「死亡が事実だったとしても、テロをめぐる状況に変化はない」と分析する	5. 2 (月)	中日 (夕刊)
72 貝淵弘三医学研究科教授、篠原久典理学研究科教授、宮治 昭本学名誉教授が第64回中日文化賞を受賞	5. 3 (火)	中日 (朝刊)
73 現代日本誤百科 (425)：「声を強くして」言いたい 町田 健文学研究科教授	5. 3 (火)	中日 (朝刊)
74 福井康雄理学研究科教授は今年度の「福井教室」を7日に開講する	5. 3 (火)	中日 (朝刊)
75 川崎浩司工学研究科准教授は東海市と知多市の市立病院を統合した新病院の建設地について「公共性が高い施設はアクセスできる場所に建てるべきだ」と話す	5. 3 (火)	中日 (朝刊)
76 本学はボランティアとして被災地入りした学生について各教員に単位面での配慮を求める	5. 3 (火)	中日 (朝刊)
77 現代日本誤百科 (426)：「闇雲に寒い」町田 健文学研究科教授	5. 4 (水)	中日 (朝刊)
78 現代日本誤百科 (427)：市長と議会の「意見がねじれる」町田 健文学研究科教授	5. 4 (水)	中日 (朝刊)
79 福和伸夫環境学研究科教授は「地震の揺れは震度だけでなく、揺れの周期についても考える必要がある」と語る	5. 5 (木)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
80 紙つづて：縁は異なるもの？ 森 郁恵理学研究科教授	5. 6 (金)	中日 (夕刊)
81 訃報：二宮市三本学名誉教授	5. 7 (土)	中日 (朝刊) 他2社
82 丹羽利充医学系研究科寄附講座教授ら 長寿の遺伝子が肥満にも影響することを突き止める	5. 7 (土)	中日 (朝刊)
83 松尾清一医学部附属病院院長は浜岡原子力発電所が停止した場合の事について「計画停電することになれば大変困る」と話す	5. 7 (土)	中日 (朝刊)
84 叙位叙勲：馬越 徹本学名誉教授 従四位瑞宝小綬賞	5. 7 (土)	中日 (朝刊)
85 山岡耕春環境学研究科教授は東南海地震の周期を東海地震に当てはめ確率論で発生確率を算出する	5. 7 (土)	中日 (朝刊)
86 高野雅夫環境学研究科准教授は浜岡原子力発電所の操業停止について「乗り切れるであろう」との見解を示す	5. 7 (土)	読売
87 山本章夫工学研究科教授は脱原発論を冷静に議論するよう呼びかける	5. 7 (土)	読売
88 生源寺眞一生命農学研究科教授は震災後の農業の復興について意見を述べる	5. 8 (日)	日経 (朝刊)
89 佐分理事は被災学生の受け入れについて「日本の将来を担う優秀な人材が、研究を続けられるようにすることが必要だ」と話す	5. 8 (日)	読売
90 日本疲労学会市民公開講座「疲労をめぐって」開催：21日 伴 信太郎医学系研究科教授が話す	5. 8 (日)	中日 (朝刊)
91 現代日本誤百科 (428)：「県民の理にかなう」町田 健文学研究科教授	5. 9 (月)	中日 (朝刊)
92 東海地区大学準硬式野球春季リーグ：医学部チームは6-4で岐阜大学医学部チームに、14-8で名古屋学院大学に勝利する	5. 9 (月)	中日 (朝刊)
93 中部学生ライフル射撃：本学は団体1位となる	5. 9 (月)	中日 (朝刊)
94 辻 幸臣環境医学研究所助教授ら 反復する心室細動（電氣的ストーム）の病態を分子レベルで解明	5.10 (火)	中日 (朝刊)
95 現代日本誤百科 (429)：「病にふせていた」町田 健文学研究科教授	5.10 (火)	中日 (朝刊)
96 川崎浩司工学研究科准教授は東日本大震災の被災地を調査し、まず自分の命を守る「自助」が重要だと語る	5.10 (火)	中日 (朝刊)
97 高野雅夫環境学研究科准教授は「浜岡原子力発電所の停止で自然エネルギーへの転換が進む」と語る	5.10 (火)	中日 (朝刊)
98 上田 実医学系研究科教授らのチーム 幹細胞の培養液を使いヒトの歯槽骨の再生に成功	5.10 (火)	毎日 (夕刊)
99 上田 実医学系研究科教授らのチーム 間葉系幹細胞の培養液を使いラットの頭の骨の再生に成功	5.10 (火)	日経 (夕刊)
100 現代日本誤百科 (430)：ご利用のお客様は「お声がけください」町田 健文学研究科教授	5.11 (水)	中日 (朝刊)
101 長尾能雅医学部附属病院教授が国立大学医学部で医療安全に専従する初めての正規の教授として紹介される	5.11 (水)	読売
102 安藤雄一医学部附属病院准教授は抗がん剤治療の最前線について語る	5.11 (水)	日刊工業
103 現代日本誤百科 (431)：「未知の可能性が詰まって」いる 町田 健文学研究科教授	5.12 (木)	中日 (朝刊)
104 本学の教授2人が常滑市の新病院の「基本構想策定委員会」に参加する	5.12 (木)	朝日 (朝刊)
105 福和伸夫環境学研究科教授は「大震災で懸念全てが現実になった」と話す	5.13 (金)	読売
106 丹羽利充医学系研究科寄附講座教授は12日から開幕した国際尿毒症学会の会長として挨拶の言葉を述べる	5.13 (金)	中日 (朝刊)
107 博物館野外観察園見学会・電子顕微鏡観察会開催：25日	5.13 (金)	中日 (朝刊)
108 紙つづて：科学者の名言 森 郁恵理学研究科教授	5.13 (金)	中日 (夕刊)
109 川崎浩司工学研究科准教授らの研究で東海、東南海、南海地震が3連動で起きた場合、津波が15メートルを超える恐れのあることが分かる	5.14 (土)	朝日 (朝刊)
110 「とんぼ 子と親の『星を見る会』」開催：28日 田原 譲エコトピア科学研究所教授が解説	5.14 (土)	中日 (朝刊)
111 本学は約120の研究室で研究者や大学院生を中心に約300人の被災した大学関係者を受け入れ始める	5.14 (土)	朝日 (朝刊)
112 野依良治本学特別教授は東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故後の我が国がとるべき方向性について語る	5.15 (日)	読売
113 小林 誠本学特別教授は研究の楽しさや子どもたちへのメッセージを語る	5.15 (日)	読売
114 名古屋大学数理科学同窓会は飛田武幸本学名誉教授の名を冠した「飛田賞」を創設する	5.15 (日)	中日 (朝刊)

平成23年度名古屋大学公開講座

■全学企画

テーマ：夢見た今と夢見る未来

開催日時：平成23年8月18日(木)～10月20日(木)の火・木曜日（祝日除く）

午後6時～午後7時30分

会場：シンポジオンホール

募集定員：200名

応募資格：満18歳以上の方

受講料：9,200円

申込期間：平成23年6月1日(水)～7月22日(金)

ホームページ：<http://www.nagoya-u.ac.jp/international/lecture/open-lecture/>

申込・問合せ先：研究協力部社会連携課「公開講座」係 TEL：052-789-5969



日程	テーマ	講 師
8/18	17～19世紀東アジアにおける漂流民	文学研究科 池内 敏 教授
8/23	がんを切らずに治す	医学系研究科 直江 知樹 教授
8/25	大地震の発生予測を目指して	環境学研究科 鷺谷 威 教授
8/30	「時空の抜け道」ワームホールは実在するだろうか？	太陽地球環境研究所 阿部 文雄 准教授
9/6	生涯学習の過去・現在・未来	教育発達科学研究科 松田 武雄 教授
9/13	デモクラシーの変容と未来像	法学研究科 中田 瑞穂 教授
9/15	グローバル時代の物流・ロジスティクス・サプライチェーン	経済学研究科 高桑 宗右 門 教授
9/20	夢の3D テレビ	工学研究科 谷本 正幸 教授
9/22	移民は21世紀の夢であるかナイトメア（悪夢）であるか	国際開発研究科 Saveliev Igor 准教授
9/27	クリーンエネルギー源として期待される燃料電池	エコトピア科学研究所 余語 利信 教授
9/29	「人間は、なぜ、そう感じ、考え、行動するのか」—1ミリの動物から脳の不思議に挑戦	理学研究科 森 郁恵 教授
10/4	量子を操る計算機 —高速性と消費エネルギーの物理限界に挑む—	工学研究科 藤巻 朗 教授
10/6	赤外線で見えた宇宙の姿	理学研究科 金田 英宏 准教授
10/11	コンピュータとの対話	情報科学研究科 武田 一哉 教授
10/20	食料生産の過去・現在・未来 —お米の研究から第二の「緑の革命」を目指す—	生物機能開発利用研究センター 北野 英己 教授

■ラジオ公開講座

テーマ：夢見た今と夢見る未来

開催日時：平成23年7月3日(日)～9月4日(日) 毎週日曜日 午前11時～午前11時30分

放送局：東海ラジオ放送 (1332KHz)

問合せ先：研究協力部社会連携課「公開講座」係 TEL：052-789-5969

日程	テーマ	講 師
7/3	生涯学習の過去・現在・未来	教育発達科学研究科 松田 武雄 教授
7/10	コンピュータとの対話	情報科学研究科 武田 一哉 教授
7/17	「人間は、なぜ、そう感じ、考え、行動するのか」—1ミリの動物から脳の不思議に挑戦	理学研究科 森 郁恵 教授
7/24	グローバル時代の物流・ロジスティクス・サプライチェーン	経済学研究科 高桑 宗右 門 教授
7/31	「時空の抜け道」ワームホールは実在するだろうか？	太陽地球環境研究所 阿部 文雄 准教授
8/7	17～19世紀東アジアにおける漂流民	文学研究科 池内 敏 教授
8/14	夢の3D テレビ	工学研究科 谷本 正幸 教授
8/21	がんを切らずに治す	医学系研究科 直江 知樹 教授
8/28	大地震の発生予測を目指して	環境学研究科 鷺谷 威 教授
9/4	食料生産の過去・現在・未来 —お米の研究から第二の「緑の革命」を目指す—	生物機能開発利用研究センター 北野 英己 教授

■部局企画

日程	講座名等	会場	定員	受講料	問い合わせ先
5/14(土) 10:00~12:00	エコトピア科学研究所 第2回市民参加アベニュー 「聞いてみよう、見てみよう!あなたの周りの電気と暮らし」	IB 電子情報館 IB015講義室	100名程度	無料	エコトピア科学研究所 エネルギーシステム寄附研究部門 (小島准教授) 052-789-5874 h-kojima@esi.nagoya-u.ac.jp
6/9(木)、6/10(金)、 6/16(木)、6/17(金) 計4回 18:30~20:00	国際開発研究科 「世界の中のラテンアメリカ音楽 -国際化する音楽の諸相」	国際開発研究科8階 多目的オーデトリウム	30名	6,200円	文系総務課総務グループ(国際開発) (村瀬) 052-789-4952
7/16(土) 13:00~16:00	遺伝子実験施設 第10回 Jr. サイエンス教室	理学部 G 館 1階 生物実習室	20名	無料	遺伝子実験施設 Jr. サイエンス教室担当係 052-789-3086 jr-sci@gene.nagoya-u.ac.jp
8/2(火) 9:30~16:30	平成23年度第1期高大連携・ものづくり公開講座 (第5回) 機械工作コース 「メタルバランス」 電子回路・制御コース 「USB 通信」または「マイコン制御玩具」	創造工学センター (IB 電子情報館北棟10階)	各10名	400円	工学研究科創造工学センター 052-789-3788 mono@cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp
8/3(水)~8/5(金)	理学研究科・名古屋市科学館共催 第20回公開セミナー「天文学の最新線」	名古屋市科学館(8/3) 及び野依記念学術交流館 (8/4、8/5)	300名	1,000円 (学生500円)	太陽地球環境研究所 太陽圏環境部門(松原准教授) 052-789-4316
8/6(土)~8/7(日) 10:00~16:00	生物機能開発利用研究センター公開実験講座2011 「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを体験する」	生物機能開発利用研究 センター	15名	2,500円	生物機能開発利用研究センター 公開実験講座2011係 052-789-5194
8/8(月)~8/11(木) 10:00~16:00	数学アゴラ(夏季集中コース)	理学部1号館509号室	約100名	無料	多元数理科学研究科教育研究支援室 052-789-2833
8月中旬 13:00~17:00(予定)	エコトピア科学研究所 第3回市民参加アベニュー 「聞いてみよう、見てみよう!あなたの周りの電気と暮らし」	未定	100名程度	無料	エコトピア科学研究所 エネルギーシステム寄附研究部門 (小島准教授) 052-789-5874 h-kojima@esi.nagoya-u.ac.jp
8/27(土) 13:30~16:00	情報科学研究科基盤研究公開セミナー 「記録の情報科学-技と知の記録と応用-」	IB 電子情報館中棟 015講義室	100名	無料	情報文化学部・情報科学研究科庶務掛 052-789-4716 gsis@is.nagoya-u.ac.jp
9月~2012年3月の 土曜日、全10回 10:00~12:00	経済学研究科オープンカレッジ自由奔放サイエンス	経済学部 カンファレンスホール	200名	無料	経済学研究科エクステンション・サービス 052-783-8900 ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp
9月~10月の土曜日、 全3回 14:00~16:00	総合保健体育科学センター柔道寝技教室	第4体育館(柔道場)	20名	無料	柔道部部长(山谷教授) 052-789-3797
10/15(土) 13:00~16:30	環境医学研究所市民公開講座	野依記念学術交流館2階 カンファレンスホール	200名	無料	環境医学研究所 ストレス受容・応答研究部門 分子シグナル制御分野 052-789-3867 takakos@riem.nagoya-u.ac.jp
10/20(木)	情報科学研究科先端技術公開セミナー	未定	未定	無料	情報文化学部・情報科学研究科庶務掛 052-789-4716 gsis@is.nagoya-u.ac.jp
10/22(土)、29(土)、 11/12(土) 10:00~16:00	多元数理科学研究科秋の公開講座	理学部1号館509号室	約100名	無料	多元数理科学研究科教育研究支援室 052-789-2833
10月~12月の火曜 日、全9回 18:30~20:00	国際開発研究科 「グローバル化時代の国際協力」	未定	30名	無料 (但し、資料代 1,000円)	文系総務課総務グループ(国際開発) (村瀬) 052-789-4952
11/19(土) 13:30~16:00	医学部医学科・附属病院鶴舞公開講座	医学部附属病院 中央診療棟3階講堂	未定	未定	医学部・医学系研究科総務課総務第一掛 052-744-2774
12月上旬 13:30~17:00	第11回遺伝子実験施設公開セミナー	野依記念学術交流館2階 カンファレンスホール	200名	無料	遺伝子実験施設(杉田教授) 052-789-3080
2012年3月下旬 9:30~16:30	平成23年度第2期高大連携・ものづくり公開講座 (第6回) 機械工作コース 「スターリングエンジン」 電子回路・制御コース 未定	創造工学センター (IB 電子情報館北棟10階)	各10名	400円	工学研究科創造工学センター 052-789-3788 mono@cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp

※各公開講座については、<http://www.nagoya-u.ac.jp/international/lecture/open-lecture/> に最新情報を掲載しています。

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

4月26日(火)～8月31日(水)

場 所：博物館 2階展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
(8月13日～16日臨時休館)
入 場 料：無料

第15回博物館特別展
「深海の生物と古生物
ー知多の化石から生きているウミユリまで」



[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

6月2日(木)～8月31日(水)

場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス 2階
時 間：10:00～16:00
休 館 日：土・日曜日・祝日
(8月15日～16日臨時休館)
入 場 料：無料

アフガニスタン写真展
テ ー マ：『『名古屋大学中央アジア栄養適応調査-1968-』の記録』



[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

6月16日(木)

場 所：ES 総合館 1階 ES ホール
時 間：10:00～12:20
定 員：200名
参 加 費：無料

第3回大学病院施設マネジメント研究会
テ ー マ：「病院における事業継続性 (BCP) とファシリティマネジメント」

[問い合わせ先]
施設管理部施設企画課総務掛
052-789-2115

6月16日(木)

場 所：経済学部 2階
カンファレンスホール
時 間：13:30～17:30
定 員：500名
参 加 費：無料

第9回大学施設マネジメント研究会
テ ー マ：「大学の事業継続性 (BCP) とファシリティマネジメント」

[意見交換会]
場 所：ES 総合館 1階 ES ホール
時 間：17:50～19:30
参 加 費：3,000円

[問い合わせ先]
施設管理部施設企画課総務掛
052-789-2115

6月18日(土)

場 所：博物館 3階講義室
時 間：10:30～
定 員：75名
対 象：原則、シリーズ全てに参加できる人
参 加 費：無料

名古屋市生涯推進学習センター
大学連携キャンパス講座
「達人と話そうー自然を科学するー」
講演題目：「糖類を科学するー人類を支える多糖の世界ー」
講 演 者：小林一清氏 (本学名誉教授)



[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

6月18日(土)

場 所：博物館 2階展示室
時 間：14:00～15:00
参 加 費：無料

博物館コンサート (NUMCo)

テ ー マ：「マヌーシウスウィングとミュゼット」
演 奏 者：山本佳史氏 (ギター)、鈴木俊介氏 (ギター)、
榎間淳一氏 (ギター)、青木孝明氏 (アコーディオン)、
モロオカケイチ氏 (ベース)



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

6月22日(水)、7月13日(水)、
10月5日(水)、10月26日(水)

場 所：野依記念学術交流館 2階
カンファレンスホール
時 間：16:30～18:00
参 加 費：無料

グローバル COE プログラム
「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」
化学系セミナー

講演題目：「不斉酸素酸化の実現を目指して」(6/22)
講 演 者：香月 島氏 (九州大学教授)
講演題目：「12族金属錯体の触媒反応と固体発光特性」(7/13)
講 演 者：伊藤 肇氏 (北海道大学教授)
講演題目：「化学ツールを活用したニューバイオテクノロジー」(10/5)
講 演 者：小宮山 真氏 (東京大学先端科学技術研究センター教授)
講演題目：「 π 電子系分子種の配列制御—分子周りのデザイン—」(10/26)
講 演 者：竹内正之氏 (物質・材料研究機構グループリーダー)

[問い合わせ先]

GCOE 事務局
gcoe-office@chem.nagoya-u.ac.jp

6月22日(水)

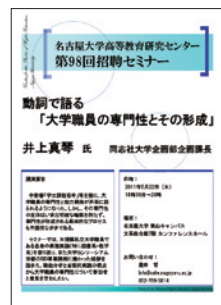
場 所：文系総合館 7階
カンファレンスホール
時 間：18:30～20:00
参 加 費：無料

高等教育研究センター
第98回招聘セミナー

講演題目：「動詞で語る『大学職員の専門性とその形成』」
講 演 者：井上真琴氏 (同志社大学企画部企画課長)

[問い合わせ先]

高等教育研究センター
研究員 豊田 哲 052-789-5814



6月23日(木)

場 所：国際開発研究科 8階
多目的オーデトリウム
時 間：15:00～16:30
参 加 費：無料

名古屋入国管理局長講演会

講演題目：「出入国管理行政と外国人留学生」
講 演 者：沖 貴文氏 (名古屋入国管理局長)

[問い合わせ先]

国際開発研究科
講師 浅川晃広 052-789-4564



6月25日(土)

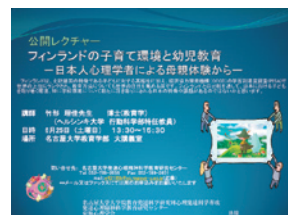
場 所：教育学部 2階大講義室
時 間：13:30～15:30
参 加 費：無料

公開レクチャー

講演題目：「フィンランドの子育て環境と幼児教育
—日本人心理学者による母親体験から—」
講 演 者：竹形理佳氏 (ヘルシンキ大学特任教員)

[問い合わせ先]

発達心理精神科学教育研究センター事務局
052-789-2658



イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

6月25日(土)、7月23日(土)、
8月6日(土)、8月20日(土)

場 所：インキュベーション施設1階
プレゼンテーションルーム

時 間：10:00～

参加費：無料

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部
ビジネス人材育成センター 052-747-6490

ビジネス人材育成センター 平成23年度前期B人セミナー

テ ー マ：「医薬品・機能性食品開発における試験内容と、それに係る業務について」、
「臨床試験における統計学の役割」(6/25)
「弁理士の業界と業務」、「再生医療の現状と今後の展望」(7/23)
「なぜ、あの人は惚れ惚れするほど、コミュニケーション上手なのか?」(8/6)
「バイオ業界の現状と求められる“人財”」、
「プロフィールシート作成講座」(8/20)

7月4日(月)

場 所：環境総合館1階レクチャーホール

時 間：18:00～19:30

参加費：無料

[問い合わせ先]

災害対策室 052-788-6038

第71回防災アカデミー

テ ー マ：「東日本大震災の発生予測をめぐる諸問題」
講 演 者：島崎邦彦氏(東京大学名誉教授)



7月5日(火)

場 所：文学部3階哲学リテラチャーラボ

時 間：16:30～18:00

参加費：無料

[問い合わせ先]

文学研究科
教授 金山弥平 052-789-2211

何畫瑰博士哲学講演会

講演題目：「だれが善を欲しているのか?」
ープラトン、アリストテレスのアクラシアー観
講 演 者：何畫瑰氏(中國文化大學助教)

7月17日(日)、10月23日(日)、
3月4日(日)

場 所：医学部保健学科東館4階大講義室

時 間：13:30～16:30

参加費：2,000円(全4回)

[問い合わせ先]

医学部保健学科 GP 事務室 052-719-3158

平成23年度 がんを生き抜くライフトピアスクール

内 容：「クラス交流」、「患者会情報」(7/17)
「がんの治療法」、「アップデート」(10/23)
「明るく病気と向き合う」、「修了式」(3/4)



7月28日(木)

場 所：博物館2階実験室・3階講義室

時 間：10:00～16:30

定 員：20名

対 象：小学5年生から中学3年生

参加費：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

テ ー マ：「博物館のバックヤードに行ってみよう!」
化石から学ぶ生命進化」



名大トピックス No.217 平成23年6月15日発行

編集・発行/名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町(〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>)でもご覧いただけます。

表紙

理学南館1階坂田・平田
ホール
(平成23年5月18日)



110 第7代総長 いしづかなおたか 石塚直隆 — 名大をひきいた人びと⑫ —

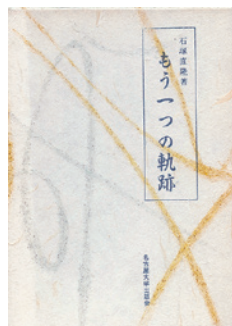
第7代総長の石塚直隆は、1912(大正元)年、アメリカのサンフランシスコで、アメリカ移民の子として生まれました。生後半年で神奈川県に住む伯父に預けられ、日本で育った石塚は、1934(昭和9)年に東京高等学校(東京大学教養学部などの前身)から大阪帝国大学医学部へ進学しました。

卒業後の1940年、中国上海の病院に赴任しますが、その翌年に日本とアメリカが開戦します。実の両親がアメリカに住んでおり、自身もアメリカ国籍を持っていた石塚にとって、これは大変つらいことでした。43年には上海で召集され、第一線の戦場に軍医として従軍しました。

敗戦後、大阪大学医学部産婦人科教室にもどり、助手から助教授となりました。奈良県立医科大学教授をへて、1961年に名古屋大学医学部教授に就任します。以後も旺盛な研究活動を続け、66年には日本産科婦人科学会会長に就任しています。

ちょうどその頃、時あたかも名大に大学紛争を波が押し寄せ、いわゆる医学部紛争が起きました。とりわけ67年に当時の社会問題にもなった教授選考問題が発生すると、石塚はこの問題に対応するいわゆる五人委員会の1人に選ばれ、研究時間がほとんどなくなるほど真摯に取り組みました。その後、72年には医学部長に、そして75年7月に総長に就任するのです。

6年間にわたる総長時代の事績としては、新しく取得した大幸キャンパスへの名古屋大学医療技術短期大学の設置(77年)、医学部附属病院分院の移転(79年)、中央図書館の完成(81年)などが挙げられますが、とくに石塚総長が力を注いだのが、前任の芦田総長時代に先鞭がつけられた教養部改革です。教養部改革に関する政府への概算要求は、任期のほとんど費やしての大事業でした。この時期の教養教育についての改革や議論は、現在の全学教育制度の礎になっているともえるでしょう。



2	1	3
4	5	

- 1 石塚直隆第7代総長(1912-1993)。専門とする研究分野は、黄体ホルモンの生体内代謝、絨毛上皮腫の化学療法など。
- 2 石塚が医学部長の時代の鶴舞キャンパス(『名古屋大学概要 昭和48年度』より)。
- 3 1979年6月、大幸キャンパスに新築移転(診療開始は翌月)した医学部附属病院分院(現在の医療センター)。
- 4 石塚総長の任期満了直前の1981年6月に完成した中央図書館(完成当時の写真)。
- 5 石塚直隆著『もう一つの軌跡』(名古屋大学出版会、1985年、353頁)。石塚が発表してきた文章や1964年の国際学会に出席した時の記録、書き下ろしの回想記などからなっている。